〔追悼文〕

吉見 宏先生を偲んで

菊谷　正人
（グローバル会計学会会長　法政大学名誉教授）

（北海道大学 HP より掲載）

北海道大学大学院経済学研究院教授・副学長であり、本学会理事・学会賞審査委員であった吉見　宏先生が、令和５年１月２日に逝去された。令和４年 10 月 22 日に開催された第５回研究大会の学会賞審査委員会と理事会にはオンラインで参加されていただけに、歳明け間もない１月４日の夜半に古賀智敏先生から電話があり、吉見先生の訃報を聞いたときは寝耳に水であり、驚きの余り一瞬声が詰まった。

行年 62 歳（満 61 歳）である。これからの研究・教育に強い意欲を滲まされていただけに、無念であったであろうと拝察できる。本学会としても、学会設立に多大な協力を尽くされた上に、学会発展のために貢献されていた有能な研究者を失うことは誠に残念至極である。

吉見　宏先生は、長崎県の名門高校である長崎県立長崎東高等学校を昭和 55 年３月に卒業され、現役で九州大学経済学部経営学科に入学されている。会計学ゼミの指導教授の強い勧めにより、九州大学大学院経済学研究科経営学専攻修士課程に進学され、経済学修士（九州大学）を取得された。直ちに博士後期課程に進まれ、平成２年３月に単位取得満期退学されている（その後、博士（経営学）（北海道大学）を取得された）。

九州大学大学院博士後期課程を単位取得された後、一旦、日本学術振興会特別研究員を勤められ、平成３年２月に北海道大学経済学部講師として赴任され、助教授を経て、平成 24 年４月に北海道大学大学院経済学研究科教授に昇進された。その間には、教育研究評議員、会計専門職大学院院長、大学院経済学研究科研究科長、理事・副学長を歴任されている。研究教育に止まらず、北海道大学のために学内行政にも汗を流されていた。

学会レベルにおいても、会計理論学会会長、日本会計研究学会理事に選任され、日本監査研究学会からは監査研究奨励賞を受賞されている。社会貢献活動としては、公認会計士試験委員、金融庁企業会計審議会臨時委員、内閣府「公益法人のガバナンスの更なる強化等に関する有識者会議」委員、日本公認会計士協会倫理委員会委員等を勤められていた。さらに、北海道運輸交通審議会会長、北海道公益認定等審議会会長、北海道旅客鉄道株式会社社外取締役等の役職も兼任され、地域貢献のために活動されていた。吉見　宏先生は、日本、北海道、北海道大学のために身を粉にして貢献されてきたと言っても過言ではない。

吉見先生は、会計監査をコア・テーマとして研究を重ねられ、会計監査の理論家として活躍された。平成 11 年には学術書『企業不正と監査』（税務経理協会）、平成 17 年に『監査期待ギャップ論』（森山書店）を上梓されるとともに、テキストとして平成 13 年に『ケースブック監査論』（新世社）が公刊され、平成 15 年、平成 18 年、平成 20 年に重版されている。また、平成 30 年には編著者として最新のテーマであった『会計不正事例と監査』（同文舘出版）を編集されている。学術論文としても、「ポストコロナにおける公会計と企業観の変化」（『会計理論学会年報』第 35 号、令和３年）、「パブリックセクターの監査の行方」（『會計』

第 197 巻第２号、令和２年)、「統制の重層化と監査 ― 監査・保証の品質管理とプロセスの透明化 ―」(『会計・監査ジャーナル』第 31 巻第 10 号、令和元年)、「会計専門職とその監査が直面する危機－公認会計士に求められる判断－」(『企業会計』第 71 巻第 1 号、平成 31 年）等、監査に関する多様な論題について、独自の見解を開陳されている。

吉見先生の研究業績の内容は格調高く、かつ、重厚であり、緻密かつ謙虚な研究態度、不断に研究を重ねる御姿は敬服に値する。終始一貫して、学問研究には緻密かつ厳格に処せられていた。これからも優れた業績を残されるものと嘱望されていただけに、会計界にとって大きな損失ではあるが、研究者・教育者として研究・教育に情熱を注ぎ込まれた吉見　宏先生の慈愛に満ちた笑顔を偲びつつ、御冥福を心より祈念する次第である。

九拝　合掌

令和５年２月２日